

# みんなで語る会報告書

- 開催日時 : 平成28年11月25日(金)(19時00分~20時30分)
- 開催場所 : 魚見校区公民館
- 参加者数 : 【市民】15人、【市職員】市長ほか8人、【総計】24人

## ○ 会次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 地方創生について
- 4 意見交換
- 5 地域代表あいさつ
- 6 閉会

## ○ 意見交換の内容

### 【市民】

人口が減少し税収が2億円減ったという説明があったが、2億円分の事業ができなくなったということである。これから先、福祉や教育のためにますます費用が必要になると思うが、その財源をどこから持ってくるのか。市が凍結した地熱開発の事業をすれば雇用も生まれ、地方創生や環境の面でもすばらしい事業ではないだろうか。この事業に対して一部の議員が反対をしているが、私には理解できない。市民共有の財産である温泉を使って事業をすることはすばらしいと思うので、凍結ではなく前進する考えはできないのか。

<市長>

議会や報道を含め、賛否両論あった。議会においては住民への説明が不十分であったということで、苦渋の決断であったが凍結に至った。また、地熱の事業に対する行政手続きや、地熱発電に対する自然への影響など、いくつかの問題に対しそれぞれの考えがあった。市を二分したような形で事業をしてもうまくいかないという判断で、今回は凍結とした。地方創生との絡みの中では、やはり重要な事業であったのかもしれない。これは市民が判断することであり、凍結に至った経緯等を踏まえて、幅広い意見を聴きながら慎重に今後の方向性を決めたい。

ただ、観光の形態が大きく変わってくることは予想できる。外国人観光客は刺青があったり、文化の違いにより裸で温泉に入れない。ホテル関係を含めていろいろな意見を聴きながら、今後の指宿市の観光のためにはどのような方法がいいのかということも判断の材料として考えなければならぬだろう。

環境省へ迷惑を掛けるわけにはいかないということで取り下げたが、予算関係については今後どのような形にするのか。また、補償関係が生じる可能性についても、関係部局で話し合っているところである。ぜひ、いろいろな意見をいただけるとありがたい。

### 【市民】

私は、40年にわたり宿泊業をしている。指宿に貢献している宿泊業に対し、地熱発電や地熱の恵みプロジェクトに関する説明が一切なかった。代表者のオーナー会という組織に対しても説明はなかった。突然、7月になってから説明があった。議会に100条委員会が立ち上がるという話から、凍結という返事を出したのではないか。また、行政からの申請書の中で議会無視もあったと聞いている。

また、このような参加人数の会で、校区の方々への説明になるのか。急にこのようなことを12

校区でするのはおかしい。もっと丁寧にするべきである。

<市長>

この語る会は地熱のために急に行ったものではなく、地域の課題、今回は地方創生という中で指宿の人口減少をどうするのかということであり年度計画にも入っている。

事業そのものの価値をどう捉えるかということでも話し合っていないと、議会や温泉を守る会とのやりとりの二の舞になる。

【市民】

このような地方創生に関する説明では納得いかない。どのようにしたらよいか、市長の言葉で言ってもらいたい。

<市長>

地熱は、一つの手段であって目的ではない。農業や観光、そして地域の振興等いろいろなものに地熱を生かすことは、地方創生事業の一つとして考えている。

また、今日の会への参加者が少ないということであるが、このような会合への参加は強制することはできず、自主的に参加してもらおうことしかできない。広報紙等による周知には努めているが、少なかったことは反省しなければならない。

地熱や地方創生事業について、議員は昨年の段階から知っていた。地方人口ビジョンや地方創生事業については、昨年の段階で市民へのパブリックコメントや議会への説明も行っている。また、議会にも説明をしながら総合振興計画の中にも入れ込んである。

ただ、その時々で広報紙等により知らせたが不十分だという意見については、謙虚に受け止めた。

【市民】

地熱の説明は、地域だけに限らず指宿市全体に広げていけば良かったのではないかと。地元の議員だけではなく、他の議員の理解を求めるためにも何か不十分だったのではという気もする。

私が観光地に行って印象に残るものは、海岸、大きな岩場、絶景、そして大きな松などである。昨年の語る会でも観音崎の松枯れについて質問し、市の担当課が努力していることは認める。しかし、枝が1本枯れたときにすぐ切るなど、何とか努力すれば松を守ることができるのではないかと。指宿に入って最初に見るあの絶景を、ぜひ今後とも守ってほしい。

次に、指宿では様々な長距離走大会等が行われており、指宿陸上競技場をスタートして右側の方に行くとすぐは歩道の幅が広く安全に走れる。ところが、折り返して陸上競技場に入ろうとするときには道幅が狭く、中に入るときに危ないと誘導をしながら感じる。市民会館は市が管理する土地であるので、安全に走れるよう改善してもらいたい。

<市長>

松枯れについては、「観光地として海岸が台なしになる。何とかできないか。」と、どこでも聞かれる。樹幹注入を行ったり、開闢山麓や戸ヶ峯では無人ヘリを使い空中散布を行ったりしているが、それでも効かない。これは緊急に解決しなければならないことだが、具体的な解決策が見つからない。宮ヶ浜に植えた虫くい虫に強い松でさえやられた。樹種を変えたりとか、抜本的にいろいろやらなければ駄目だろう。県や国を含めて、指宿の課題として訴えていきたい。

ウォーキングやマラソンの大会には、多くの方々に来ていただく。また、高校駅伝や中学駅伝を指宿で恒常的に開催してもらうためには、安全なコースの整備や設定が必要であろう。何とかしなければならないというのは同感である。陸上競技場周辺の在り方についての基本的な構想も、いろいろと考えているので、関係者に相談しながら進めていきたいと思っている。

【市民】

来年から、要介護1、要介護2、そしてデイサービスだったと思うが、市が賄うようになることであった。2025年がピークになると聞いているので、それまでどんどん人口減になれば財政的にも大変であろう。そこで、地域のコミュニティというか、ボランティアが大切な時期になると思う。市の方では、ボランティアの養成にいつ頃から取り組む予定であるのか。

それと、今年は台風のために防災訓練ができなかった。今、温暖化が進み異常気象であり、指宿

も非常に大型の台風による被害を受けたが、これからは大型の台風がどんどん来るような気がしてならない。そこで、地域での防災対策を作るよう、行政の方が強く指導するぐらいの方がいいのではないだろうか。

最後に、2016年から2025年までの第二次総合振興計画の進捗状態も見守ってきたい。

<健康福祉部長>

平成29年4月1日から、要支援1・要支援2の方々は、全国共通のサービスから市町村の事業へ移行する。ただ、あくまでも介護保険制度の中で総合事業がスタートするものであり、不安なく今のサービスを継続できる体制を整えているところである。2025年には団塊の世代が全て75歳に到達するため、国としても様々な制度改革を進めている。国の動向を見ながら、市町村としてもどのように医療・介護を進めていくのか慎重に検討していかなければならない。

また、ボランティア養成については、今日、第1回目の講座が開催された。まずは、身近に地域の方々と接している福祉アドバイザーを対象にしたところ、16名の参加があった。今後は、さらに対象を拡大していきたい。地域でどのように高齢者を見守っていくかということは非常に大切な課題であるので、引き続き講座を開催しながら、社会福祉協議会とともにボランティアの養成に取り組んでいきたい。

<市長>

コミュニティの崩壊は、今後の大きな課題だと思う。隣近所が、仲が悪くなる時代になった。

地域づくりをどうするかというのは、成功例に学ぶべきであろう。串良のやねだん（柳谷集落）では挨拶等が少なくなり、空き家も増えてきた。そこで豊重さんは、他所に住んでいる子どもや孫から届いた手紙を高校生に集落放送で読ませた。すると、かねて仲が悪かった人たちがお互いを褒めだした。また、空き家を利用して大学生や画家の卵を招いて活動をしたところ、地域が変わってきた。使わなくなった畑で、地域の方と高校生が一緒になって芋を植え、それを素に焼酎を作って販売することでボーナスやお年玉の支給もできるようになった。

昔は、集団就職をして行く隣の人に、頑張るよにと心なしかの饞別をするものであった。そのような時代は、地域づくりやボランティアもできた。しかし現在は、何かあればうらやみ、恨み、苦しむといった時代である。

そこで、昔の良さを取り戻そうということで、山川の福元区では空き家に小学生を集めて、高校生等が勉強を教えている。そうすることで、地域がつながってくる。私は、魚見校区でも絶対できると思っている。魚見小学校の子どもも減っている。今、コミュニティ、ボランティアを含めてどうするのが重要である。災害があれば、尾掛や吹越は危険である。防火訓練の上でも助け合いは大切である。昔のような時代こそがコミュニティの在り方であり、私たちが今考えなければならないことだ。

介護の問題も出たが、介護職員のなり手が少ないため10年後に施設に入れるとは限らない。このような大変な仕事は若者が支えていくべきだろうが、今働いている60代・70代の方々が退職していく。

ホテルの仲居さんも同様で、お互いに気遣ってなかなか休むこともできない。指宿商業高校に観光学科を設け、ホテルでのアルバイト等の体験を通して働けるような場をつくることできないかと、教育長とも話をしたばかりである。昨日、JTBの社長とも話をしたが、ホテル業界が100の力を発揮するためには、業界を支えるような体制をつくらなければならない。それは働く人であり、特に仲居さんの力は大きいとの話であった。

今、何をしなければならないかと考えると、地方創生であり雇用の確保である。お盆の時期に捨てるオクラを加工することでオクラかるかんもできる。それが、6次産業化の一つである。収益が上がり安定的な職業になると、農業で頑張ろうという人も出てくる。

これから皆さんの意見を聞きながら、この魚見校区で何が問題で、どのようなことが必要かをお聴きしながら戦略に盛り込むこともできる。生の声をいただくとありがたい。

**【市民】**

3年前に尾掛地区の道路舗装を市にお願いしたところ、年次的に対応してもらいたい。引き続き、対応をお願いしたい。

また、地熱発電については、私もしてもらいたい。原子力発電は火力発電よりもコストが掛からないと言うが、いざ事故が起こるとその地域が死んでしまう。地熱発電は自然のエネルギーを活用して発電するものである。指宿は温泉も浅い所、深い所とあり、グリーンピアも 1,000m以上のボーリングをして、あれだけの蒸気が出ている。市長は、そのようなこともよく調べてのことだと思う。皆さんにもよく理解していただき、今後はできるような形でしてもらいたい。そうでなければ、観光も減ってきている。東京のスカイツリーのように、何か目玉になり人が集まる施設も考え、人口減が少しでも緩やかになるようにしていかなければならないと思う。

<市長>

いろいろな意見があり、全てが正しく、全てが一考を要することだと思う。ものの見方は、その人の立ち位置によって違う。違った意見を否定したり排除したりするのではなく、いつ、どこで、何を、誰に、どのように説明していくのか。手段である地熱の方が非常にクローズアップされ、目的である地方創生の面がぼやけた。私としては、行政は努力をしたつもりである。地熱そのものが反対なのか。行政手続きを含めて、手段・方法がまずかったのか。あと一つは、説明を果たしていないから反対なのか。様々な考え方があつた。いろいろな事業の在り方を考えながら、冷静に判断しなければならない。10年、20年後の指宿が良くなるようにとしているので、共通のところはここにあるということを描きながら検証しなければならない。市でも市民を対象にした大きな説明会を12月にしようとしたが、それもできない状況になった。その辺りも含めて、今後どうしていくかということだと思う。

#### 【市民】

今年の市議会第1回定例会で予算化しようとしたことについて話したい。2月・3月にかけて、サッカー場に21億、地熱の恵み事業は7億8千万で付帯事業を入れると31億、市民会館の建替えも30億ぐらい掛かると。そして、池田湖開発で20億という説明が市役所の執行部からあつた。総事業費が100億から掛かる。少子化の話も出ているが、税金も減っているいろんなことがあつて、何かをしなければならないという気持ちは市長と一緒に思う。しかし、人口減少がある中で、このような大型事業をするのであれば、市民の声を聴き、しっかりと市民と行政が向き合うべきじゃないかということで同僚議員から声が掛かつた。執行部が市民に説明し、市民の声をしっかりと聴いて議会に出してくれればいいという思いでやっている。国の予算を確保するために、3月31日付けで市は書類を出してしまった。しかし、議会は予算を通しておらず、この新聞報道に至つた。

市長には今後、市民にいろいろな計画を説明し、市民がいい事業だということをしてもらいたい。池田地区では、池田湖開発についてアンケートも取り、冊子を作って議会にも配つた。サッカー場、地熱の恵みは説明会をしたが、そのような書類は出していない。同様にしてもらえれば、市民も理解し、後年度に負担が増えても、自分たちは賛成したという声が出てくると思う。市民の声を吸い上げてもらいたい。

<市長>

サッカー場については、魚見校区の前市長と語る会が出た。魚見校区をどうにかしてもらいたい、サッカー場や弓道場を造ってもらいたいという意見が相当出た。私は、それを継続事業とした。前市長は、造りませんと断言をしている。

また、瀧口ポンプ場や焼却場も造ると言っていたが、ずっとできなかった。私が市長になってから、汚泥処理センター、処分場、焼却炉、ポンプ場を百数十億掛けて建設した。事業として今しなければならず、逃すわけにはいかなかった。

なぜ今、サッカー場やいろいろなことをしなければならないかということ、今でないと絶対にできないからである。合併特例債など、有利な起債がある。しかも、オリンピックが2020年にあつて、totoの有利な補助事業もあつた。

この事業は、平成12年から議会でも度々討論されてきた。ここのスポーツ公園、塩漬けになっている市の開発公社の土地を早く処分しないと、利息だけで過去10年間に4億ぐらい払っている。今の段階で早くしないと合併特例債が切れ、ずっとそのままになる。だから、何としても今やりたいというのが私の思いであつた。そうすることで、この界限がどうなるかを考えた。鴨池の運動公園のように道路を整備すると、交通規制をかけることなく市内の駅伝等は全てできる。

ただ、議員の発言のように、もっと早めに説明等をすべきというのも、一つの忠告として謙虚に受け止めたい。

魚見校区では海岸の整備を含めて、潮風街道という遊歩道を今和泉まで造る予定もある。観光という面でも、地域の発展という面でも、この魚見校区は大きな要素をはらんでいる。そのために、岩本交差点には右折・左折ラインも造った。そうすることで、指宿小学校や北指宿中学校では大型バス等の交通が減り、登下校の安全も確保できる。そして、観光バスは知林ヶ島の前を通る地域のデザイン、都市計画のマスタープランというのも造った。今まで大きな市でありながら、そのようなものがなかった。そのような計画の中で造ろうとしている。大まかな計画は、総合振興計画や都市計画マスタープランなどにある。

それぞれの事業については、いつ、どこで、誰に、どのような方法で周知して理解を深めるか。そのことは、今後進める中でいろいろしなければならないと思う。総合体育館をどこに造るかというのも問題になった。市民会館も建替えなければならない。そのときどきで事業としてしてきていれば、今このようにはならなかった。市長の暴走を止めなければ、第二の夕張になるという声も聞くが、やるべきときに、やるべきことをしなければならない。それを、市民に分かってもらいたい。学校の体育館も運動場も全部替えた。お金が掛かっても、子どものために思い切った。波風が立たないようにするのがいいかもしれないが、それでは指宿が変わらない。選挙公約を「動」とし、それを忠実にしようとしたが、それをどう説明し住民の納得を得るのかという点は謙虚に受け止めたい。

ただ、魚見校区が大きく変わらなないと、この地域の観光ルート、知林ヶ島、尾掛・魚見港を含めて、どうしようもないだろうと思う。最も大きいのは知林ヶ島の入り口もそうである。

#### 【市民】

今日の説明のようなことを各地で話していれば、市民や議員も心配しなくて済んだ。そこは、もう少し努力してほしいと思っていた。

それと、指宿市をもう少し活性化するためには財源が必要である。そのためには、働く人、若い人が必要である。フィンランドのように学費を全額無料にすれば、一人親で子どもが貧困だという世帯が全国から集まって来るのではないか。

<教育長>

無料化することができれば理想だと思うが、財源の問題など現実的なことを考えなければならない。また、ある面では、何でもただにしてもらおうという子どもを育てていいのか。自分のためであれば、ある程度の負担はしていくという子どもたちを育てていかなければ、子どもたちが将来どうなるのか少し気になる。お互いが受益を受ける部分は負担をして、余った部分は皆さんに分ける相互扶助も大事だと思う。

<市長>

国民健康保険の医療費を2割カットすることができれば15~16億減り、教育費を無料にするのは簡単である。だから、健幸のまちをつかって医療費を抑えて、地域振興や子どもの教育、又は介護に役立てようというのが健幸のまちづくりという、指宿が一番大切にしている事業である。簡単だと言ったのは、予算面だけの話である。みんなの努力次第ではできるのではないか。

#### 【市民】

フィンランドにおける無料化の最終目的は、雇用創出である。ぜひ、研究してもらいたい。

#### 【市民】

山川・開聞は、小中一貫校にするとしている。指宿は別だと思うが、小中一貫校について説明してもらいたい。

<教育長>

人口減少とともに、子どもの数も減っていく。そこで、子どもたちはある程度人数のいる中で切磋琢磨しながら、いろんな考えを出し合って勉強をしていくのがいいだろうということで、一つは人数の面から考えて適正規模の学校づくりをしたらどうかということである。もう一つは、小学校から中学校に上がるときに、中学校の生活に馴染めず不登校になる「中一ギャップ」という現象も

出てきている。そのようなことを解消するためには、義務教育の9年間を通して教育計画を立てて進めたらどうかというのが、小中一貫校の考え方である。

指宿市では、平成20年から学校の在り方について考えてきた。最近では、平成27年・28年の2年間を掛けて「学校のあり方を語る会」又は「学校のあり方を考える会」を各所で開催し、市民の意見を伺った。昨年は、指宿地域部会、山川地域部会、開聞地域部会を設置し、地域の代表の方々にもいろいろと検討していただいた。

その中で、平成27年度の終わりに、山川と開聞地域からは小中一貫教育を進めた方がいいのではないかと報告を、指宿地域からはもう少し考えた方がいいのではないかと報告をいただいた。今年度は、そのような報告を実現するためにどのようにしたらよいかということで、教育委員会が中心となって市役所の中で学校づくりの調査・研究チームを設置したり、地域の代表の方々57名に2年間の委嘱をし、「学校づくり推進委員会」というものを設置した。市役所の調査・研究チームが検討したことを、その推進委員会に検討してもらい、また持ち帰って調査・研究をするということを今年1年間行いながら、年度末に向けて市の方向性を示し、平成29年度はその方向性について推進委員会等で検討をしていただく。小中一貫教育は義務教育をどう進めていくかということで、指宿地域でも小学校の先生が中学校に出掛けて、専門的な立場から指導をしたり、生活指導については実践事項を取り決めて、小学校と中学校が一緒になって進めようというような小中連携教育も進めている。北指宿中の数学の先生が、指宿小学校に行って授業の手伝いをするといった先生同士の交流も始まっている。そうすることで、子どもたちは知っている先生が中学校にいて、生活にも馴染みやすいのではないかと。そのような環境づくりも進めている。そのようなことが、小中一貫教育である。

山川・開聞では、小中一貫校をすることが決まっているわけではない。今まで市民から意見を聴いてきたので、教育委員会として本腰を入れて検討していく状況である。

<市長>

避けられないと思う。広報いぶすき10月号に掲載されている山川地域の出生者は0である。11月号に掲載されている開聞地域の出生者は1人。北指宿中は我々の頃は1,000人近くいたが、今は300人。南指宿中は1,500人いたが400人。しかし現在は、指宿市全体で1,000人を少し超えるぐらいしかいない。あと何年かすると1,000人を切る。それでも、5校を維持することができるのか。小学校も同様である。

その選択は行政がするのではなく、地域がどのような選択をするのかである。子どもの将来を見据えた上で、こうしたいという強い意思がないとできない。川辺の田代小は、子どもたちがサッカーやソフト、ドッジボールもできないのはかわいそうだと、校区民が川辺小と一緒にするよう申し出た。それが、理想である。そうしないためには、魚見校区に住む人を増やさなければならない。そして、魚見小学校を何とかするためには、地域が頑張らなければならない。